

08・夜のお庭で、独占欲炸裂、全裸露出ラブラブ貝合わせ

トラック07からそのまま続き。

五月二十日。十八時半ごろ。

場所は主人公の自宅、庭園。

SE1 外の環境音

【最初から最後まで流す】

【0―5秒ほどまで流してSE19】

【その後、ごく小さな音量で流す】

【トラック終了まで流し続ける】

主人公とシーラ、庭で抱き合ってキスしている。

●正面 0センチ

「【※3回※】キスする。

受け身な甘いキス。主人公の好きにさせているので」

んっ……♡ ん……♡
ちゅっ……♡

【※息づかいのみ※ で表現する。

満足げで、ゆっくりとしたため息】

ふー……♡

【※3回※ 呼吸する。

満足げで嬉しそうな呼吸】

はあ……はあ……。

はあ……♡

【※4回※ キスする。

嬉しそうな甘いキス】

ちゅ♡ ちゅ♡

んう……♡

ちゅ♡

【※1回※ 呼吸する。

ゆっくり目の、うっとり嬉しそうな呼吸】

はああ……っ♡

【※6回※ キスする。

嬉しそうな甘いキス」

あんむ……ちゅっ♡

ちゅっ♡♡ ちゅっ♡♡

れえろ……くちゅっ♡」

〈主人公〉

「はー、はー、はー。

はー、はー、はーっ……♡

んっ……♡ ちゅっ♡♡ くちゅっ♡」

主人公、シーラにしがみついて、夢中でキスを繰り返す。

シーラはその様を見て、嬉しそうにしている。

● 正面 0センチ

「くすぐすと嬉しそうに。

主人公がすっかり興奮し、発情モードである事がとても嬉しいので」

……ふふ。

お嬢様、大変興奮しておられますね」

〈主人公〉

「だってえ……♡」

● 正面 0センチ

「【※4回※】キスする。

嬉しそうな甘いキス」

んっふ……ちゅ♡

ちゅ♡ ちゅ♡

「くすくすと嬉しそうに。

主人公がすっかり興奮し、発情モードである事がとても嬉しいので」

こんなにも激しく、お求めになれるなんて……♡

「【※6回※】キスする。

軽めの、嬉しそうな甘いキス」

ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅ。

ちゅ。ちゅ。ちゅ♡

「嬉しそうにからかう。

主人公が、あまりにも自分に対して『がつっている』状況が嬉しいので」

……家（いえ）の庭だからといって、少々油断なされているのではございませんか？」

〈主人公〉

「シーラもでしょおっ……♡」

● 正面 0センチ

「くすくすと嬉しそうに。

露骨に発情している主人公が可愛いので。

自分もまた主人公とセックスしたくてたまらない事を、素直に打ち明ける」
ええ……ふふ。

【穏やかに、嬉しそうに。

『シーラも興奮していて、主人公を激しく求めている』事をすんなり認める」
そうです。私（わたくし）も。

私（わたくし）もでございます。

お嬢様とこうして過ごせるのは、一週間ぶりですから……♡

【※7回※ キスする。

ねっとりとしたデ IPP キス。

今度はシーラから積極的にキスする」

ああんむ……れるれる……れるれる……ちゅ♡

ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅるっ♡

【※息づかいのみ※ で表現する。

甘ったるい、興奮気味のため息】

はあっ……♡

【穏やかに、嬉しそうに。

だが、少し興奮気味に】

お嬢様に触りたくて。触りたくて。触りたくて。

歯止めが利かないかもしれません」

〈主人公〉

「ええ……♡ 怖あ……♡」

にやにや主人公が怖がるふりをすれば、シーラも楽しそうだ。
怖くなる自信と、自覚があるらしい。

● 正面 0センチ

「【主人公の言葉に相槌を打つ。

『怖い』事をすんなり認める。

主人公の指摘の通りだと思っているので」

はい……♡

【嬉しそうに。

『怖くなる』というのは『素直に欲望を解放できる』という事なので。

主人公に対して『怖くなっても良くなる』のは、シーラにとってとても幸せな事なので」
きつと、怖くなってしまうです。

【※2回※ キスする。

嬉しそうな甘いキス」

ちゅ……ちゅるっ♡

【優しく。

言いながら、左耳側に移行していくイメージで」
このように……」

〈主人公〉

「……！」

シーラ、言いながら主人公の左耳に頭を寄せ、主人公の耳を吹く。

これによって声の方向が、『正面』から『左』になる。

● 左 0センチ

「【※ごく軽く耳を吹く※

ふいうちで、ドキツとさせるイメージで

ふっ♡」

〈主人公〉

「あ♡」

シーラ、主人公の左耳にささやく。

★左 ささやき 0センチ ※マークのセリフまでささやく

「【ひそひそと、そつと、優しく。

だけど少しセクシーな感じで。

主人公と聞き手に、今後のえっちな展開を期待させるような感じで」
メイドとしての立場を忘れ」※

〈主人公〉

「……あ♡あ♡あ♡」

★左 ささやき 0センチ ※マークのセリフまでささやく

「ひそひそと、そっと、優しく。」

「ただ少しセクシーな感じで。」

主人公と聞き手に、今後のえっちな展開を期待させるような感じで」
ただ……」※

シーラ、主人公の左耳を吹く。

●左 0センチ

「※ごく軽く耳を吹く※」

ふいうちで、ドキツとさせるイメージで」

ふっ♡」

シーラ、主人公の左耳にささやく。

★左 ささやき 0センチ ※マークのセリフまでささやく

「ひそひそと、そつと、優しく。」

「ただ少しセクシーな感じで。」

主人公と聞き手に、今後のえっちな展開を期待させるような感じで」

目の前の、貴方様とまぐわう事ばかり考えている。

愚かで、嫉妬ばかりする、悪いメイドになってしまおうでしょうね……♡」※

〈主人公〉

「あ……っ♡

ん……？ シーラ、嫉妬してたの……？」

主人公、たつぷりと耳を攻められてあまあまにとろけつつも、今のシーラの言葉が気に入り、顔を向けてたずねる。

一体シーラは、誰に嫉妬するというのか。主人公には、皆目見当がつかないからだ。強いて浮かぶとすれば、メイドたちだろうか。

勉強会に参加せず、恭子との打ち合わせに付き添ってくれた子たちである。

……けど、だからって、特別何かを一緒にしたって訳でもないし。

嫉妬の対象にはならない気がするんだけど……。

と、思っていると、シーラが照れたようにこう言った。

● 左 0センチ

「「ちよつと照れたように、だがどこか嬉しそうに認める。自分の素直な想いを、主人公に話せる事が嬉しいので」……はい。」

本当は、私（わたくし）がお側を離れている間。お嬢様と過ごせて、お嬢様の心をずっと占めている、篠田様の事が羨ましくて、とても嫉妬していたのです」

〈主人公〉

「えーっ……」
♥

予想外である。

確かに恭子は、主人公にとって大切な仕事相手だ。

それが恭子にとっても同じなら、とても嬉しいと思う。

だが、お互いそれ以上の関係になる事は想定していない。
シーラも、その辺りは当然理解しているものと思っていたのだ。

……だが、嫉妬される事は、申し訳なくありつつも、正直嬉しい。
シーラが冷静さを欠くほど自分を想っていてくれたのかと思うと、主人公の胸は、ぎゅ
っと熱くなってしまう。

● 左 0センチ

「【ちよつと照れたように、だがどこか嬉しそうに認める。
自分の素直な想いを、主人公に話せる事が嬉しいので】
おかしいでしょう？」

〈主人公〉

「もう……ばか……♥ ばかじゃん……♥
確かにまあ、篠田さんの事は今週よく考えてたけどさ。
わたしが好きなのはシーラだって、シーラも知ってるじゃんっ……♥
」

だから主人公は、思わずにやにやしながらじゃれつく。

完全にデレデレしている。

● 左 0センチ

「ちよつと申し訳なそうに、だが、嬉しそうに認める。

また、この一週間の自分の気持ちを述べる。

やはり自分の素直な想いを、主人公に話せる事が嬉しいので」

はい……だから、私（わたくし）はとても愚かなのです。

勉強会のお話を頂いた時も。

最初から

『お側を離れたくない』

『お気持ちは嬉しいけれど、お嬢様をお守りする以上に大切な事など、私（わたくし）にはありません』

と、素直にお断りすればよかったのです。

【苦笑しつつ、自嘲する。

シーラは、嫉妬や不安があったとしても、自分の中だけでこらえ、完結しているならまだよいと思っている。

だが、今回はそうはいかなかった。

主人公は勿論、あまねと日菜子にも心配をかけてしまったので」

なのに、できなくて。

従順なふりをして……一人で拗ねて。

淋しがって……。

本当に、まだまだなのです。

あまね様と日菜子様にも、随分ご心配をおかけしてしまいましたね」

〈主人公〉

「なるほどね……」

主人公、いよいよすべてに合点がいき、申し訳なくもあれば、どうしようもなく頬が緩んでしまう気持ちもある状態で何度も頷く。

しかし今回、あまねと日菜子に諭されるまで、主人公は事態に気づけなかった。

そう思うと、己の視野の狭さが改めて情けなくなるが……それでも、過ぎた事は取り返せない。

ならば今沢山いちゃいちゃして、今後シーラが二度と不安になりそうもない位、自分の気持ち伝えておこう。

と、思う。

●正面 0センチ

「はにかみつつも嬉しそうに。

今日はこれからじっくり主人公と過ごして、今の自分の気持ちを、言葉でも、身体でも、たっぷり伝えられるので」

ええ……ですから、もう隠しません。

今日は、自分の気持ちを、余す所なくお伝えいたします」

シーラ、言いながら主人公の左耳に頭を寄せ、主人公の左耳に話しかける。
これによって声の方向が、『正面』から『左』になる。

●左 0センチ

「優しく、そっと。

主人公に、まずは言葉で真剣な愛情を伝える」

愛しています……お嬢様。

大好きです。

私（わたくし）は、貴方様が全てなのです。

毎日、いつでも。

一秒でも長く、貴方様と過ごしたいのです……♡」

〈主人公〉

「ふふっ♡ ふふふふっ♡ ふふふっ♡

わたしもそう。わたしもそうだからね♡

シーラ……♡」

シーラ、主人公とキスするために、左耳側から離れる。
これによって声の方向が、『左』から『正面』になる。

●正面 0センチ

「※14回※ キスする。

ねっとりとした、情熱的なディープキス。
段々濃厚になっていく」

んう……ちゅっ♡ ちゅ♡ ちゅっ♡ ちゅ♡ ちゅ♡

れるお……んちゅっ♡ ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅ♡ れろおっ♡

ああんむ……ちゅるっ♡ ちゅばっ♡ れろっ♡」

シーラ、キスしながら、少しずつ主人公の服を脱がせていく。

主人公は立ったままこれを受け入れ、好きにされていく。
あたたかな外気が、主人公の肌に触れる。

SE2 シーラが主人公の服を脱がせていく音

【最初から最後まで流す】

【0―1秒流してから、次の『シーラ』のセリフと重ねて流す】

【やや小さめの音量で流す】

● 正面 0センチ

「【※4回※】 キスする。

ねっとりとした、情熱的なディープキス。

脱がしながらキスしている」

んんっく……んん

ちゅ♡♡ ちゅ♡♡

【ここで一度唇を離す】

ちゅばっ♡♡

【※4回※】 呼吸する。

うっとりとした、少し荒い呼吸】

はあ……はあ……はあ……はあっ……♡
」

〈主人公〉

「でも……全てなのに、こんな事するんだ……♡
」

主人公、脱がされながら、にやにやと尋ねる。

自分たちは仲のいい恋人同士だが、この通り、健全さという点には少々欠ける。
その上、二人とも、それを度々確認しながら、ますます興奮している節がある。

※ここからトラック終了まで、シーラは、ずっと『やや興奮気味』になる。

『これまでと比較して、すべて一段階ほど興奮しているな』という感じになる。

●正面 0センチ

「※1回※ キスする。

軽く触れるだけの優しいキス」

ちゅ♡

「優しく、嬉しそうに。

さらっと認める。

今日もまたこうして、『こんな事』つまり『主人公好みの羞恥プレイの側面が強いセックス』ができるので。

確かにそれは、『主人公好みのセックス』である。

だが、シーラにとっても『主人公の好みに寄り添っているうち、自分好みにもなった行為』でもあるので。

主人公はシーラに性癖を形成されたと思っているが、シーラもまたそれは同じなので「はい……然様（さよう）でございます。」

私（わたくし）はお嬢様が全てなのに。

このような事をして、お嬢様を辱めてしまうのです。

お嬢様のせいですよ。

お嬢様が、こういった行為を。

【前のセリフを補足している】

このような場所で平然と裸になり。

愛し合う行為をお好きなものですから……♡

【くすくすと嬉しそうに。】

シーラは『主人公のせい』『染められた』という一件ネガティブな事を言っているが、実際はそれがとても嬉しいので「

私（わたくし）も。」

すっかり染められてしまったのです……♡」

〈主人公〉

「えー？ わたしのせいにすんの……？」

主人公がにやにや問えば、シーラはますます嬉しそうだ。

シーラは自分をすっかり持っているタイプのように見えて事実そうなのだが、意外とこのように、染められたり、影響されたりする事が好きである。

『それはきつと、自分の事が好きだからなのだろう』と思うと、主人公は幸福で満たされる。

●正面 0センチ

「くすくすと嬉しそうに。

甘々にじやれ合う感じで」

そうです。

貴方様のせいで、私（わたくし）は、貴方様なしでは生きられない人間にされてしまった。

「ここではあえて『貴方』と呼ぶ。

メイドとしてよりも、主人公の恋人としての側面を強調しているのですね」

私（わたくし）がものを考える時、いつでも、最初に貴方がいる。

【一呼吸おいてから。

特に甘々に。

『自分の嗜好を散々歪ませた責任を取れ。つまり、永遠に一緒にいてくれ』という意味で言っている」

責任を……取って下さいましね……♡」

〈主人公〉

「いいよ……♡ わたしの全部、シーラにあげる……♡」

●正面 0センチ

「くすぐすと嬉しそうに。

甘々にじゃれ合う感じで」

ふふ……♡

ありがとうございます。

私（わたくし）の全ても。

全部、お嬢様に捧げます……♡

【※3回※ キスする。

嬉しそうな甘いキス】

ちゅ。

ちゅっ ♡ ちゅ……♡」

シーラ、ここで一度キスを終わると、主人公の左耳にささやく。

これによって声の方向が、『正面』から『左』になる。

SE3 シーラが動く音

【最初から最後まで流す】

★左 ささやく 0センチ ※マークのセリフまでささやく

「【ひそひそと、そっと、優しく。

だけでも少しセクシーな感じで。

主人公と聞き手に、今後のえっちな展開を期待させるような感じで。
『ガゼボ』とは、庭などに休憩所として設ける、柱だけの小屋の事】

では……お嬢様。あそこのガゼボへ、入りましょう」※

〈主人公〉

「あそこって……あの……？」

主人公、ささやかれながら、わかっていて、あえて尋ねる。

二人の中では、もうこれからどうするかなんて、言わずとも了解しているようなものだ。だが、その中であえて主人公は聞かし、シーラも丁寧に答える。

つい先ほどのやり取りと同じだ。

いちいち言葉にする事で、お互いの興奮を高める。

これは、二人の定番パターンなのだ。

★左 ささやき 0センチ ※マークのセリフまでささやく

「【ひそひそと、そっと、優しく。

『ガゼボ』そのものについてと、そこでこれまで二人がどのように過ごして来たかを説明していく」

そうです。

いつも私（わたくし）達が利用している、あの屋根と、座る所がある、あそこです。

お嬢様と私（わたくし）が、これまで幾度となくお喋りをして、勉強をして。時にはお友達をお招きして楽しんで。

【一呼吸おいてから。

さらに一段階少しセクシーな感じで。

主人公と聞き手に、今後のえっちな展開を期待させるような感じで】

……そして、セックスをしたあそこで。

裸になって、たっぷりと睦み合いました……♡※

〈主人公〉

「ほんとに悪趣味……♡」

主人公が笑えば、シーラも嬉しそうだ。

外では完璧なメイドとして振る舞うシーラの、こんなにも倒錯した提案。

彼女のこんな一面を知っているのも、その欲望を受け止めるのも自分だという事実が、主人公をさらに熱くさせる。

早く、とても許されないような変態セックスをして『こんな事はいけない』と思いながら気持ちよくなりたい。

そんな気持ちで、今日も心は占められていく。

● 正面 0センチ

「くすぐすと嬉しそうに。

主人公と一緒に、野外セックスという『悪い事』の相談をしているのが楽しいので」
ええ。先ほどお伝えしましたでしょう……？

今日（きょう）は。

愚かな、悪いメイドになってしまうと……♡

【小さく微笑んで。

主人公に移動を促す】

……ふふ。

さあ。

私（わたくし）にお掴まり下さいませ。

お姫様抱っこで、運んで差し上げます……♡」

〈主人公〉

「……ん……♡」

主人公、従順にシーラの首に腕を回すと、乱れた服のまま、しっかりと抱きつく。

我ながら、こうされる事に、あまりにも慣れていて恥ずかしい。

外では性的な話なんて絶対にしないし、友達だって品のいいあの二人なのに、主人公の実態はこれなのだ。

主人公は多分学校で一番、いや、もしかしたらもっと広い範囲で、最もセックスばかりしている、性欲の権化なのだ。

SE 4 主人公が動く音

【最初から最後まで流す】

SE 5 主人公がシーラに抱きつく音

【最初から最後まで流す】

主人公がお姫様抱っこされた事で、距離が少し遠くなる。

● 正面 15センチ

「くすくすと嬉しそうに。

主人公と一緒に、野外セックスという『悪い事』を始めるのが楽しいので。

また、それにあたって、主人公がとても従順なのが可愛いので」

……ふふ。

とってもしっかりお掴まりになられて、可愛い」

〈主人公〉

「シーラがつかまれて言ったんでしょー……♡」

SE 6 二人が密着する音

【最初から最後まで流す】

● 正面 15センチ

「くすぐすと嬉しそうに。」

『そう言えばそうだった』という感じで。

主人公の反応が可愛いので。

また、あえてこの状況を改めて言葉にする事で、主人公の興奮を高めようとしている」
然様（さよう）でございましたね。

私（わたくし）が貴方様にこうやって。

『殆（ほとん）ど何も身に着けてない状態ですがみつ』とお願いしたのでした……♡」

シーラ、近づいて一回だけキスする。

●正面 0センチ

「【※1回※】キスする。

軽く触れるだけのキス」

ちゅ♡」

シーラ、主人公をお姫様抱っこした状態で歩き出す。

シーラにしがみついている主人公は、彼女の興奮した少し荒い呼吸を聞いて、感じて、ドキドキしている。

SE7 シーラが主人公を抱っこして歩く音

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【0―2秒ほど流して次の『シーラ』のセリフと重ねて流す】

【その後、▲1まで流し続ける】

●正面 15センチ

「※9回※ 呼吸する。

静かに、ゆっくりめに。

やや興奮気味ではあるが、ごく普通の呼吸。

移動しながら呼吸しているイメージ」

はあ……はあ……ふう……。

はー……はー……はー……。

ふう……ふう……ふう」

▲1 ここでSE7がストップする。

シーラ、ここで移動を終えると、主人公の左耳にささやく。
これによって声の方向が、『正面』から『左』になる。

★左 ささやき 0センチ ※マークのセリフまでささやく

「【ひそひそと、そつと、優しく。

だけど少しセクシーな感じで。

主人公と聞き手に、今後のえっちな展開を期待させるような感じで。

ほら……お嬢様。着きましたよ。

残りのお洋服も……全部脱がして差し上げます」※

SE8 シーラがガゼボのベンチに腰掛ける音

【最初から最後まで流す】

シーラ、ベンチに腰掛けると、主人公をお姫様抱っこしたまま、すぐにキスする。
そのまま、キスしながら主人公の服を脱がせていく。
これによって声の方向が、『左』から『正面』になる。

●正面 0センチ

「※4回※ キスする。

甘々な優しいキス」

はむ……ちゅ♡ ちゅ……ちゅ♡

シーラ、正面の距離でささやく。

★正面 ささやく 0センチ ※マークのセリフまでささやく

「優しく、嬉しそうに。」

さつきまでは少し『主人公に意地悪したい』気持ちが勝っていた。

だがこうしてキスしているうちに愛おしい気持ちの方が強まって『意地悪セックス』よりも『ラブラブセックス』の方に気持ちが傾いてきたので。

また、それは主人公も同じだろうと確信しているので」
万歳して。

足を……開いて。

私（わたくし）の手で、裸になって下さいませ。

一番恥ずかしい姿になった貴方を。

ぐちゃぐちゃに愛して差し上げますから……♡」※

〈主人公〉

「……ふふ。いいよ……♡」

SE9 シーラが主人公の服を脱がせていく音

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【0—2秒ほど流して次の『シーラ』のセリフと重ねて流す】

【その後、▲2まで流し続ける】

こうして、主人公は服を脱がされていく。

先ほどまでの『半脱ぎ』状態ではなくて、本当に裸にされていく。

●正面 15センチ

「【※3回※ 呼吸する。

少し早く、荒い、興奮気味の呼吸】

はあ、はあ。はあ」

シーラ、一度近づいてキスする。

●正面 0センチ

「【※1回※ キスする。

甘々な優しいキス】

ちゅ……………♡」

シーラ、再び元の距離に戻る。

●正面 15センチ

「【※9回※】呼吸する。

少し早く、荒い、興奮気味の呼吸。

だんだんゆっくり、さらに興奮気味になっていく」

はあ……はあ……はあ。

はあっ……はあっ……はあ……っ ♡

はあっ…… ♡

はああ……。はあ……。 ♡

「うっとりと感嘆する。

ここで、いよいよ主人公が裸になったので」

ああ……」

〈主人公〉

「はあ……はあ……はあっ……はあっ…… ♡」

こうしてシーラに身を任せるうち、いよいよ主人公は全裸になった。
自分の家の敷地内とはいえ、いつ誰が来るかわからない場所で、何も着ず、笑える位恥

ずかしい姿を晒している。

●正面 15センチ

「うっとり嬉しそうに。

裸になった主人公を見て満足している」

ふふふふ。もう、何もお召しになってない」

シーラ、主人公の左耳にささやく。

これによって声の方向が、『正面』から『左』になる。

★左 ささやき 0センチ ※マークのセリフまでささやく

「うっとり嬉しそうに。熱っぽく。

主人公の事がいとおしくてたまらないので。

また、愛する主人公をこれから好きにできる事が、嬉しくてたまらないので。

また、こんな変態性癖を自分だけにぶつけてくれる主人公が、可愛くて仕方ないので」

この姿を見つかれば。もう、誰にも言い逃れできませんね……。

とても可愛い。

私（わたくし）の、お嬢様……♡」

〈主人公〉

「そういうシーラは……どうなのよ……」

最後の抵抗のように指摘すると、シーラが微笑んだ。

今日のシーラはとても素直だから、隠す気もないらしい。

すぐにこう言って、ますます主人公の鼓動を早くさせてくる。

● 正面 15センチ

「うっとりとして優しく。」

主人公の質問に答えていく」

ん……？

私（わたくし）ですか？ ふふ。言うまでもございません」

SE10 シーラが主人公を隣に座らせる音

【最初から最後まで流す】

言おうとシーラは、一度主人公を隣にそっとおろすと、すんなりと自分のメイド服のスカ

ートをめくり、その中にある下着を見せる。

その上、外が暗くてよく見えないだろうからって、丁寧に足を開いて見せてくれる。するとシーラの白い下着がじっとり濡れて、灰色っぽくなるほど染みているのがわかる。さらに、シーラはためらいもなくショーツをおろし……真っ白な足の間にある、とろとろに濡れそぼった性器を見せてくれた。

SE11 シーラが自分のスカートをめくり、自分の股間を見せつける音

【最初から最後まで流す】

【0—1秒ほど流して次の『シーラ』のセリフと重ねて流す】

●正面 15センチ

「少し苦笑して。」

それまでは直接自分の目で見た訳ではなく、肌の感覚で判断していた。

だが、実際にこうしてみると、想像以上に濡れていたのだから……ご覧下さい。

私（わたくし）も。この通り……。

下着に染みる程、みっともない程濡れてしまつて。

今すぐに、お嬢様が欲しくなっております。

【※息づかいのみ※ で表現する。

興奮を抑えようとするような、ゆっくりとしたため息】

……ふう……。

【少し甘えた声で。切なげに。

少し余裕なさそうに。

※『今までと少し違う』と、聞き手をドキッとさせるイメージで※
普段シーラは、セックスの時、基本的に主人公が気持ちよければそれでよいと思っ
てい
る。

それは、攻める方が好きだし、性に合っているの。

だが、今日はそもいきそうにない。

今日ばかりは、主人公と一緒に気持ちよくなりたいので】

お嬢様。

もう我慢できそうにありません。

今日は一緒に……気持ちよくなりとうございます……
ね……？」

〈主人公〉

「……いいに、決まってるじゃん……」
♥

しよ……♡ シーラ。

一緒に気持ちよくなる……♡」

だから主人公は『言うまでもない』という気持ちで、シーラに跨ろうと近づく。

先週からなかなか攻めさせてもらえなかったが、今日は自分が上になれる。

いっぱいいっぱい、めちやくちやに、絶対にシーラを気持ちよくさせてあげようと思った。

SE12 主人公が動く音2

【最初から最後まで流す】

●正面 15センチ

「※息づかいのみ※」で表現する。

うっとりとした、気持ちよさそうな呼吸

ん……」

SE13 主人公の濡れた股間の音

【最初から最後まで流す】

主人公、裸のままシーラに跨る。
それから、身体の角度を変えて。
足を開いているシーラの上に、交差するようにして……自分の股間を擦り付けようと、
身体を密着させた。

●正面 15センチ

「【※9回※】呼吸する。

少し早く、荒い、興奮気味の呼吸。

だんだんゆっくり、さらに興奮気味になっていく」

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあつ。

はあ……はあ。

ふううつ……」

SE14 主人公とシーラの、濡れた股間の音

「最初から最後まで流す」

二人の股間が触れ合う。
だが、まだよい角度にはお互い当たっていない。

● 正面 15センチ

「【※1回※】 小さく喘ぐ。

うつとり呼吸が漏れる感じで。

主人公とセックスできる事が、たまらなく嬉しいので」

ああ………
♥

「【※4回※】 呼吸する。

少し早く、荒い、興奮気味の呼吸。

まだ少しだけ余裕がある」

ふう、ふう。ふう。

ふうっ………
♥

〈主人公〉

「シーラ、動くよ………
♥

● 正面 15センチ

「優しく。」

主人公にどのように動けばいいか導いていく」
ええ……どうぞ」

SE15 シーラが主人公の身体を小さく動かす音

「最初から最後まで流す」

「0—1秒ほどまで流して、次の『シーラ』のセリフと重ねて流す」

● 正面 15センチ

「優しく。」

主人公にどのように動けばいいか導いていく」

このように……私（わたくし）に跨って。

足の間と、足の間を、交差するように重ねて……。
お嬢様の大好きな、野外セックスを致しましょう」

〈主人公〉

「……あ……♡ やば……♡ 気持ちいい……♡」

シーラに身体的位置を調整してもらった途端、びくっと震えるほどの快感が主人公を駆け巡る。

上になる経験が少なすぎて、今日も結局補助してもらってしまった。

でも、ここからは絶対に自分が気持ちよくする。

そんな思いで、身体を動かし始める。

SE 16 主人公とシーラの、濡れた股間の音2

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【▲3 で速度が一段階早くなる】

【▲4 でフェードアウトする】

● 正面 15センチ

「うっ」とりと嬉しそうに。

主人公が既に、とても気持ちよさそうなので

……ふふ。

【※3回※ 呼吸する。

少し早く、荒い、興奮気味の呼吸。

まだ少しだけ余裕がある」
ふう、ふう、ふう。

【優しく。

主人公にどのように動けばいいか導いていく」
そうです。……こうやって。

一番弱い所を……合わせましょう……♡

【うっとり嬉しそうに。

感嘆する。

主人公とセックスできる事が、とてもとても嬉しいので」

ああ……。

こんな……場所で。

また……一つになってしまいましたね♡」

〈主人公〉

「うん……やばいね……♡

わたしたち、ほんとに変態すぎ……♡」

「くすくすと嬉しそうに。

主人公の指摘に『その通りだ』と思っているので」

ふふふふ♡

ええ……本当に、私（わたくし）達は、倒錯したカップルです。

【※3回※ 呼吸する。

とてもゆっくりとした呼吸】

ふう……ふう。ふう……。

【うっとりとし気持ちよさそうに。

主人公の性器があまりにも濡れていて、想像以上に滑るが、今日はこれが気持ちいいので。

だが、それはそれとして、濡れすぎていることについては意地悪を言う】

ああ……凄い……♡

お嬢様……濡れすぎですよ……♡

これでは、上手く合わせられないではありませんか……♡」

〈主人公〉

「はあ、はあ、ふう。

ふーっ……♡

違うでしょ♡ シーラが濡れてるから♡
こんな♡ どろどろなってるの♡」

● 正面 15センチ

「きゃっきゃと嬉しそうに。

普段より少しだけテンション高く。

主人公の指摘に『それもその通りだ』と思っているので」
ふふふふ♡

「うっとりと気持ちよさそうに。

少し余裕なさそうに。

段々ますます余裕がなくなっていく。

想定以上に気持ちいいので」

ご指摘の、通りです。

私（わたくし）も……少々……。

お嬢様の事を言えたものではない位……♡
熱くなってしまうている、ようです……♡」

〈主人公〉

「わっ……たしも……」

これだと、すぐイっちゃうかも

このままっ……一気に、してもいい……?。」

● 正面 15センチ

「優しく嬉しそうに。

少し早口になって。

とても気持ちよくて、余裕がなくなってきたので。

また、主人公にどのように動けばいいか導いていく」

ええ、ええ。

このまま。

お嬢様が跨ったまま……一緒に動きましょう?

ぬるぬるになった、おまんこと、おまんこを重ね合わせて。

擦れる度に……一緒に気持ちよくなって。

嬉しく……なりましょう?。」

〈主人公〉

「うん……」

はあ、はあ、はあ。

はー。はー。ふーっ……♡
」

● 正面 15センチ

「※9回※ 呼吸する。

少し早く、荒い、興奮気味の呼吸。

まだ少しだけ余裕がある」

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあ……♡

ふー、ふー、ふーっ……♡

「※1回※ 小さく喘ぐ。

うっとうと呼吸が漏れる感じで」

ああ……♡

「※6回※ 呼吸する。

少し早く、荒い、興奮気味の呼吸。

あまり余裕がなくなってくる」

はー。はー。はー。

ふーっ、ふーっ……ふうううっ……っ♡
」

〈主人公〉

「シーラ、手……♡

手つなご……♡

手ぎゅっとしてしょ♡」

●正面 15センチ

「【優しく嬉しそうに。

少し早口になって。

とても気持ちよくて、余裕がなくなってきたので。

また、主人公にどのような動けばいいか導いていく】

ええ、手を繋ぎましょう。

こうして、右手と左手。左手と右手を……絡ませて。

【余裕なさそうに。

少し苦しそうに。

とても気持ちがいいので】

一緒に……一緒にっ……♡

気持ちよくなりましょう。

早く、荒い、興奮気味の呼吸】

は
は
は

はあっ……はあっ……はあっ……はあっ……


【余裕なさそうに。

切なげに、愛おしそうに。

少し早口になって。

とても気持ちがいいので】

好きです。好きです、お嬢様……♡

貴方が、好きです。

ずっと。ずっと。

貴方が……好きです……♡

【※3回※】呼吸する。

早く、荒い、興奮気味の呼吸】

はー……はー……はあ。

【※※※】
3回※※※
小さく喘ぐ。

だんだん高くなる】

あ。あ♡あ♡

【※3回※ 呼吸する。

早く、荒い、興奮気味の呼吸。

何とか落ち着けようとするが、うまく行かない】
はーふう、はーふう、はーふう。

【※1回※ 喘ぐ。

気持ちいいのを、何とかこらえるような呼吸。

あまりにも気持ちよくて、もうイきそうなので
くっ………
♡

【※2回※ 小さく喘ぐ。

低く、耐えるような喘ぎ】

あ。あぁっ………
♡

【※3回※ 呼吸する。

早く、荒い、興奮気味の呼吸。

何とか落ちつこうとする】

はぁ………はぁ………はぁ………」

〈主人公〉

「シーラぁ………♡ シーラぁ………♡」

●正面 15センチ

「優しく。」

余裕がないながらも、優しく続きを促す」
ん……？」

〈主人公〉

「も……わたし……やばいかも……」

シーラ、少し近づく。

●正面 0センチ

「くすぐすと嬉しそうに。」

余裕がないながらもからかおうとする。

もうイキそうな主人公が可愛くてたまらないので」
ふふふ。

お嬢様ったら……少々早すぎませんか？

「からかいつつも、余裕なさそうに。」

シーラもイきそうなのは同じなので」
年々っ♥ 早くなっているように。

お見受け、するのですが……♥

【優しく、嬉しそうに。

少し余裕なさそうに。

ゆっくりめに。

なんとか整えようとしているので。

すんなり、自分もイきそうな事を認める」

でも……私（わたくし）もです。

貴方とするのが……嬉しすぎて。

【うつとりと。

本当に、ものすごく気持ちがいいので」

気持ちよすぎて……。

【少し苦笑して。

全く人の事は言えないほど、絶頂が近づいてきているので」

もう。もう……。

イって、しまいそうです……♥」

シーラ、元の距離に戻る。

●正面 15センチ

「【※9回※】呼吸する。

早く、荒い、興奮気味の呼吸。

段々さらに早く、荒くなる」

はし、はし、はし。

はし、はし、はし。

はしっ、はしっ、はしっ……♡

【※1回※】喘ぐ。

いきそうなのをこらえる喘ぎ。

主人公がまだイっていないので

っあ……！」

〈主人公〉

「いいよ♡ イこ♡ 一緒にイこ♡

今日は絶対一緒にイくの♡」

●正面 15センチ

「優しく、嬉しそうに。

余裕なさそうに。

主人公に『このまま動いて、気持ちよくしてほしい』『今当たっているところが、とても気持ちいい』『このまま、一緒に絶頂しよう』という旨を伝える』

ええ……一緒に。

このまま、このままここを、いじめて下さいませ。

【うっとり、独り言のように】

気持ち、いい。

【※2回※ 呼吸する。

ゆっくりめの、うっとりした呼吸】

はあ、はあ。

【※1回※ 低く喘ぐ。

とても気持ちいい所に当たったので】

ああ。

【うっとり。

独り言のように。

とても気持ちいい所に当たったので】

気持ち……いいっ……♡

【※3回※ 低く喘ぐ。

ゆっくりと、『だんだん低く』なる。

とても気持ちいい所に当たったので】

うあ。

あ。

あ。

【※3回※ 高く喘ぐ。

『だんだん早く、高く』なる。

とても気持ちいい所に当たったので】

あ♡ あ♡ あ♡

【※12回※ 呼吸する。

やや早めの、とても荒い、うっとりした呼吸。

ものすごく気持ちが良くて、イクのをこらえている呼吸】

はーふーっ、はーふうっ、はーふう。

はーひゅうつ、はーひゅうつ、はーひゅうつ♡

【うっとり、うわごとのように。

いきそうな中、少しでも多く主人公への愛情を伝えたいので】

ああ……ああ……お嬢様……。

好き。好き。好き。好きです。

好きっ……♡

【※12回※ 呼吸する。

早い、とても荒い、うっとりした呼吸。

ものすごく気持ち良くて、イくのをこらえている呼吸】

はーすう、はーすう、はーすう。

はあふうっ、はあふうっ、はあふうっ……。

【※4回※ 低く喘ぐ。

ゆっくりと『だんだん低く』なる。

とても気持ちいい所に当たったので。

絶頂が近づいている】

あ。

あ。

あ。

っく。

【※3回※ 低く喘ぐ。

ゆっくりと、『だんだん高く』なる。

とても気持ちいい所に当たったので」

あ ♡

あ ♡

あ ♡

【※1回※ 低く、長めに喘ぐ。

ものすごく気持ちよさそうに。

ここで、主人公とシーラが一緒に絶頂する。

※絶頂ポイントである事を、比較的わかりやすく伝えて下さい※】

ああああっ……… ♡

〈主人公〉

「あああ……… ♡」

二人、ここで絶頂する。

●正面 15センチ

「【※9回※ 呼吸する。

やや早めの、とても荒い、うっとりした呼吸。

だんだんゆっくりになる】

はあ、
はあ、
はあ。

は
！
。
は
！
。
は
！
。

は
し
……
は
し
……
は
し
……
」

シーラ、近づいてキスする。

●正面 0センチ

【※1回※】
キスする。

【触れるだけの優しいキス】

ちゅ♡

【くすくすと嬉しそくに。

まだ息は苦しうに。

主人公と一緒に気持ちよくなれて、とても嬉しいので。

また、大量の汗を書いている主人公が可愛らしくてたまらないので】

ふふふふ……お嬢様、すごい汗。

髪が、とても濡れているではありませんか」

〈主人公〉

「シーラもお……♡ シーラもでしょおっ……♡」

● 正面 0センチ

「くすぐすと嬉しそうに。

まだ息は苦しそうに。

主人公と一緒に気持ちよくなれて、とても嬉しいので」

ふふ……♡

【※1回※ キスする。

触れるだけの優しいキス】

ちゅ♡「

シーラ、主人公の左耳にささやく。

★左 ささやき 0センチ ※マークのセリフまでささやく

「うつとりと、とても幸せそうに。

主人公の事が、愛おしくてたまらないという感じで」

気持ちよかったですね……。

大好きですよ。お嬢様……♡」※

ここでフェードアウトして終了。